
異世界担当局捜査官

ジャガイモ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界担当局捜査官

【Zコード】

Z9909C

【作者名】

ジャガイモ

【あらすじ】

この世界は常に『狙われている』・・・これは異世界からやって来る『侵入者』を人知れず相手にしている者たちの物語です。

第一話の壇

いつもと変わらぬ帰り道、

昨日も一昨日も通った帰り道、

明日も通るはずだった帰り道。

これ以上の事なんて何も望まない、

ただ『今まま』がこの先もずっと続いていけば

それで良かつたのに・・・

勉強をして、青春をして、恋愛をして、

世の中を極々『普通』に過ぐすことが出来れば

僕はそれで満足だったのに。

そんな僕がどうして見つてしまつたのだろうか？

『普通』を望む僕が、

『人だったモノ』を喰らつている 何か を・・・。

第一話の試

案外に『異常』といつもの実はすぐそばにあるのかかもしれない、今を歩いている足元のこの道だけ少し踏み外しただけで簡単に裏側が見えてしまつ、

自信は無いけどそんな気がしてきました。

逃げるという行為がいかに難しいものなのか、

今になつてようやく分かった、

逃げている という事はすでに 見つかっている といつ事と同じかもしれない、

少しばかり遅い学習だった。

『人だったモノ』を喰らっていた 何か は僕に気付くとそれを投げ捨てこつちに向かつて来た、

ここで 逃げる という選択肢以外があつたのなら、是非とも選んでみたかった。

新聞やTVのニュース番組といつものまゝいつまゝと見ておくべきだった、

自分の身の回りの情報・状況といつものほどのかと把握していくべきだった、

それがすぐ役に立たなくとも

いつかは自身を救う時がくると

僕は身をもって思った。

そう言えれば今朝あいつが言ってたつけ

『「J」の辺りで猟奇殺人が起きてる』って、

それはもう新聞の一面を大きく飾るほどのが。

世の中とはこれまた実に面白いもので、

自分には関係の無い事だと思っているものほど

真っ先に我が身に降りかかるべく、

まったく、本氣で嫌になるほど面白い。

僕は人だったものを喰らっていた 何か に捕まつた瞬間そんなことを考えていた。

己が苦難に遭つてしまつた時、

それに対抗する手段といつものは実はすでに手にしているものかも

しない、

大事な事は諦めないとじゃない、

自分を見失わないことだ。

人が死に直面した時といつのは

これほどまでも冷静でいられるものだろうか？

いや違う、首を絞められているので意識がはつきりしていないだけだ。

もはや『怪物』としか言いようがないコレに捕まつた僕はどう抵抗すべきかを模索していた。

気が付けば何かを手にしている・・・ナイフだ、

僕はいつの間にか小さなナイフを手に入れていた。

無意識とは怖いものだ、

本当にいつ手にしたのか覚えが無い、

しかし、僕はこれ幸いにとそのナイフを僕の首を締め付けている脛々しい腕に突き刺した。

案の定『怪物』は聞いたこともない悲鳴を上げた、

解放された僕は逃げ出すために走り出そうとするが

うまく走れない、首を絞められていた時間が

少しばかり長かったみたいだ、意識が朦朧とする。

それでも僕は走る、一刻も早くこの『異常』から

逃げ出すために、でもその逸る気持ちが仇となつた。

ふらつく僕が出た場所は車道だった、

そして僕はそこで車に轢かれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9909c/>

異世界担当局捜査官

2011年1月16日02時17分発行